



小池 光選

三歳と四歳の孫が手を洗ふ並んで一人は台を使ひて

【評】三歳、四歳なかよしきようたい。言われた通り、外から帰れば手を洗う。四歳は蛇口に手が届くが、三歳は届かないので台の上に乗る。それだけの歌だがとても可愛い。「こんにちば赤ちゃん」の頃に授かりし息子もほごなく華甲を迎ふ

【評】華甲は六十歳のこ。息子もそういう年になった。なんと月日がたつのは迅速なことか。生まれたのはすみちよの「こんにちば赤ちゃん」が流れていた頃

いつか来る分かれ道だと思ふべし決然と行く免許返納

【評】嘆かないで「決然」と免許返納に赴くところがいい。人生には必ず分かれ道というものがある。新しい生活が始まるのだ。

「新しい靴下おろして履きました」中二の孫の一学期はじまる

西条市 山本美知子
若むした墓石にのぞく二等兵享年二十歳は孫の年なり

東京都 大室 英敏
「汚れなき悪戯」母と観た映画孫といふ時ふと思ひ出す

横浜市 桃井 恒和
大判焼三つ買ったし帰ろかな父と母とが待つてる家に

鳴門市 楠井 花乃
母屋より離れて住みし肺病といわれし青年のその後知らざり

郡山市 遠藤 雍子
考ふることをさせない打ち寄する車窓の波は石見の波は

瑞穂市 渡部 芳郎
御茶ノ水駅対岸の傾斜地にさつまも作りし戦中ありき

野田市 青木 作郎

栗木 京子選

非常食夕べに食し災害に備える心あらたなひと

【評】防災の日である九月一日に非常食の点検をしたのかもしれない。期限が迫るものは食べて、新たに買い足したのだ。災害に備える「心」も更新したところがすばらしい。左肘に戦傷痕ある父の脇にいつも居た母、墓誌には先に

【評】両親がともに過ごした歳月がドラマチックに描かれている。父を支え続けた母だったが、父より先に逝去したのである。「脇に」「先に」という語に深い思いがこもる。

保育園があるからいそがしいんだとつぶやきながらおさなは帰る

【評】遊びに来ていた孫であつたか。もっていてあげたいけどごめんね、というニュアンスが大人びており、抱きしめたくなる。

施設にて四億円を話題にす少し認知症の義母の明るさ

交野市 山崎 美加
健康診断にタクシーを呼ぶ昔であらば貴族の如きぜいたく

東京都 青山 繁
カセットでカーペンターズ聴く今宵 乙女だったな半世紀前

津山市 山川 知世
厚顔の知事も市長も恐るべし熊ゼミ鳴きて炎暑の続く

臼杵市 後藤 恵
電柱に座布団のような巣を作りモロツコの町をコウノトリ飛ぶ

神奈川県 大多和けい子
夫の居ぬ一週間は皿一枚洗うも大儀バックのまま食む

大津市 松井 美枝
花種の付く風船が飛んで来て返信を書く宛名のありて

所沢市 若山 巖

俵 万智選

「ズッキーニ一本」というレシピでは想定してぬような大きさ

【評】よくレシピで見かける「一本一個」「一本」という材料の分量。わかりやすいが、厳密ではない。それを逆手にとって、目の前のズッキーニの規格外の大きさが、うまく表現された。

穴埋め問題として十代を鉛筆転がしたが生きていた

【評】穴埋め問題に創造性は必要ない。生き方を押しつけられ、また適当に従ってしまつたという感覚が伝わってくる。切実な比喩だ。

雨雲はスマホ画面にやってくる窓から見える空より早く

【評】天気を知るアプリが、一足先に教えてくれる。便利さと美感のズレは、今や日常のもの。スマホ画面が架空の窓のようで面白い。

飛び方を教えるようにはためいて親子のシャツの並べペランダ

札幌市 住吉和歌子
砂時計のくびれあたりにとどまって未来に落下できないぼくら

横浜市 紺屋小町
霧雨は濡れなさそうで濡れました愛されそうで愛されません

大阪市 吉野 夏海
もう減らない金魚のエサが靴箱の上にあるまま夏が終わった

岩倉市 古橋 紗弓
このコトバ解りそうだけれどあなたには解つきのまま渡しちゃいたい

朝霞市 くりはらこみ
シャボン玉まみれの庭に過ぎてゆく時間は虹の飛沫のやうに

千葉市 小金森まき
私には手の届かない事柄にいいねを送る数字が動く

八王子市 鈴鹿 直之

黒瀬 珂瀾選

亡き妻が余命を知らず買い置きせし素麺のつゆ期限過ぎたり

【評】妻を失くして数か月後の実感です。もちろん、食品の消費量も減つたでしょう。この「つゆ」を妻と一緒に使い切る日々もありえたのか、詮なき思いが巡るのでしょう。遭されし闘病ノートの五冊目に切りとられたる白き影あり

【評】この「白き影」は、筆者がノートを破つた跡と読みました。いざ書き付けたが、死後に読まれては困ると思つたのでしょうか。死者の本音は、もう誰にもわかりません。

案件の決まつた正午 棒銀の動きを求められてはいるが

【評】仕事が一いつ無事に決着した。でも上は、将棋の棒銀戦法のようにもつと攻めろ、利益を取れと庄をかけてくる。面倒だなあ。

生涯にただ一度のみ締めしと母の遺品の帯に風当つ

熊本市 森山 昭子
儲けなき米を作るは自家米を食める喜びあればこそなり

南丹市 中川 文和
きみとゆく海岸沿いよ五年間変わらぬ笑顔の免許を持つて

大和郡山市 大津 穂波
猫じゃらしくるくる回し畦道を県選抜の四番の友と

小諸市 藤 雪陽
ペガサスにフォーマルハウト星空の秋の足音に耳澄ましけり

三原市 天崎 千寿
年間降雨量三十八ミリなるカシユガルの市場驟雨に足止めされて

宇都宮市 川辺 俊子
沈黙に大喜利のこ口を切る優しい人からいつも傷つく

東京都 風ノ桂馬